

COP15開幕

「愛知目標」さらに前へ

中国雲南省昆明で十一日に開幕した国連の生物多様性条約第十五回締約国会議(COP15)では、名古屋市で二〇一〇年に開かれたCOP10で採択された二〇年までの長期計画「愛知目標」の後継目標が主な議題となる。当時、会議に携わった人たちは、この十年余りの変化を踏まえ、さらなる取り組みの加速を期待している。

(戸川祐馬)

COP10関係者ら期待

COP10の会場で、生物多様性を紹介するブースを出展した名古屋市千種区の

一級ビオトープ計画管理士は「身の回りでエコラベルの製品

が増え、企業は生物の生息空間となる質の高いビオトープを積極的に整備するようになった」と社会の変化を評価。ただ、企業の活動は法律に基づいて工場など

の敷地内にとどまっているとして「敷地の劣化する自然を良くする仕組みを早急につくる必要がある」と訴えた。

COP10の翌年に「知多半島生態系ネットワーク協議会」を発足させた日本福祉大の福田秀志教授(五三)も、生物多様性に関する啓発イベントが増え、継続されていると認めつつ「資源循環型社会や二酸化炭素(CO₂)の削減に比べ、生物多様性は目標を立てるのが難しい」とも指摘する。今回の会合に対して

は「世界中の好事例が持ち寄られ、共有されることで、新たな活動の広がりにつながるのでは」と期待した。

十一〜十五日にウェブ形式で開かれるCOP15の閣僚級会合に合わせ、大村秀章知事は「愛知目標の名を冠する県としてポスト愛知目標の推進でも引き続き、皆さんと連携し貢献していく」とのビデオメッセージを贈った。生物多様性条約のホームページと動画投稿サイト「ユーチューブ」で紹介されている。